

光風會第一回展覽會水彩畫パステル評

赤城泰舒

六月九日から二十九日迄向二十日間、上野公園竹之臺陳列館北部にて第一回の展覽會が開催された、發起者は中澤弘光、山本森之助、三宅克巳、杉浦非水、岡野榮、小林鍾吉、跡見泰氏等出品者の多くは、前の白馬會に關係ある人達である。従つて白馬會と云ふ、名目が、光風會と改めたようなもので内容に於ては、少しの變りも見出されない、出品總數三百八十九點、内、水彩畫四十點、パステル畫七點、裝飾畫十四點、燒畫四點、版畫三點其他は油畫である、會場の裝飾に意を用ひられた丈あつて心持がよい。

例によつて水彩畫及パステルに就いて感じた事を書いて見る、盲評を謝して置く。

陳列されてゐるのは第二室である、出品畫は、點數に於て微々たると同時に内容に於ても勝れて居るものとは思はれなかつた。柴田節藏氏筆『枇杷』甘く、寫生されてはあゝるが、色は貧弱で堅い、調子等に就いても深い研究はされてない、其の畫の前に立つて甘いとは思へるが、心持よさとか深さとか云ふ心持は感得する事は出来なかつた。

野田半三氏筆『町はづれ』ワットマン半切大の畫で、三宅氏の『秋景色』と共に水彩畫中の大作である、非常に丁寧に寫生されてあるが、餘り描き過ぎて、時間等の説明に就いては忘れられてしまつてある、細心に過ぎはしないかと思はれる。

相田寅彦氏は色鉛筆畫及びパステル畫と合せて三點出品されてある、三點共いづれも美しい出来ではあるが黒っぽい冷たい色が目立つ。

赤塚忠一氏筆『雨後の三笠山』雨後としては全體に弱く、色の感じもどうかと思はれる。

鹽井ふく子氏筆『少さき池』熱心な根氣には敬服せざるを得ない、然し細心な努力の價値は如何なるものであらうか、水は暗い方がよいと思ふ。

森本藤雄氏の出品は三點ある、共に色も暖くまとまつては居るが、面白いと思ふ處も悪いと思ふ處も見出せなかつた、無事な畫である。

中澤弘光氏の出品は十二點ある、十六切位のものが多く四ツ切大のものも二三點あつた、輕快な心持よさは小品に於て味はれる、四ツ切の作品には全々私には同情出来なかつた『小娘』と題されたものは彩畫中で私の最も好きなものだ、ハツ切の少し大きくした位の畫で、京都あたりの寫生らしい、河端を歩いてゐる若い二人の女の顔が描かれてある、構圖も面白く簡潔な色彩も心持よく表情も誠に面白く見られた。

片多徳郎氏筆のパステルは二點出品されてある共、に小品ではあるが面白い作品であつた、ことに『紫陽花』の方が好きだ。

藤島武二氏筆のパステル『女の顔』はカンパスの上に描かれたもので心持よいものだ、肉の柔さも表情も誠に面白い。

矢崎千代治氏のパステルには面白いものは無い。

白瀧幾之助氏の出品は鉛筆畫に淡彩されたものである。

三宅克己氏の出品は十四點ある、残念な事には、餘り面白い作品は見出されなかつた、内容は兎も角描方の上丈にても洋行中のあの活氣のある作品の、或るものゝ様なものを私は望んでゐる、今度の出品は古い以前の同氏を思ひ出さする様な作品ばかりである、十四點の中では『庭の隅』が最も私の意を得たものである、全體に覆はれてゐる明るい弱い黄味も面白く、花も面白かつた。

第六回美術展覽會文部省告示

一第六回美術展覽會は明治四十五年十月十二日より十一月十七日まで之を開會す

二同會事務所は九月二十日までは文部省内に十月一日以後は會場内に之を置く

三同會々場は東京市上野公園竹の臺陳列館とす

四出品人は出品願書を九月十五日より十月五日までに事務所に

到達する様差出すべし

五出品は十月一日より十月五日までの間に於て之を受理す

七京都陳列會の開會期日は十一月二十三日より十二月二日までとす

九京都陳列會の出品は京都市より出品人又は買主に直接送付するものゝ外は出品人に於て文部省の指定したる期間内に文部省の指定したる場所に就き之れを引取るべし。

太平洋畫會展覽會

坂本繁次郎

今年は十年目で出品數は澤山である。そして之ぞと云ふ程のものがない、兎に角自己に正直な歩みを以つて一天張りに進むところには例へ古るくとも固定的でも、平板でも其處には其人丈けに何かしら物に成つたものが胚胎するものと見ゆる。此會中隨分根のいゝ態度を連續さるゝのに感心させらるゝ向もあるが、さりとて只一本の刃をしかと握つて兎に角に自然の一角に向つて居る事には或る可愛さと云ふ心が起らぬわけに行かぬ。決してさう云ふ風にあらねばならぬと云ふ事はあるまいが、之を塵紙の様に捨つるわけには行かぬ。さうして中村不折氏と大下藤次郎氏の作品を自分は割合に愛敬するものである。大下氏の遺作室に行つて決して自分は悪い心持はしなかつた。並べられた數十點の作品に不淨な影は見へなかつた。そして平靜な色調の間に或る心地のいゝ感情を誘はれた。いやらしいものゝ多い間に在りてきつぱりしたところは冴へて居る。所謂品のいゝと云ふ穩かな色彩の森と山には大抵常に波靜かな水が漾へさせられてある。漾へられた水面と氏の色彩の心持は其間感情の